



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



ダビンチ(ロボット支援下手術システム)を導入しました。手術室スタッフと共に。

CONTENTS

- 院長挨拶①
- 最新のロボット手術でがんに挑む③
- 泌尿器科の疾患とロボット支援下手術④
- 直腸癌に対する大きな武器：
ロボット支援下直腸癌手術について...④

- 看護師による特定行為について⑤
- 地域医療連携室の役割⑥
- 働き始めて
新人職員のメッセージ⑦
- 診療科紹介 産婦人科⑩
- 部門紹介 臨床検査科⑪

- 京都中部総合医療センター
看護専門学校⑫
- 日常生活で放射線に被ばくするって
どういこと!?⑬
- 令和2年度患者満足度調査⑭

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院(地域災害医療センター)
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2021.7
Vol.50
夏号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

水無月に思いを馳せて

院長 ^{たつみ てつや} 辰巳 哲也

今年も新緑の季節が過ぎて、病院の周りでも例年通り田植えが始まりました。水が張られた水田に映る緑の山並みや青空は水無月らしいのどかな田園風景として心をなごませてくれます。梅雨の合間の日差しは早や初夏の訪れを感じさせ、雨に濡れた美しい紫陽花を見るとカタツムリを探した子供の頃の記憶が懐かしくよみがえります。コロナと対峙する日々は続いています。川面に飛び交う虫など、自然の美しさは季節とともに同じように巡ってきています。



これまでの人類の歴史上、ペストやスペイン風邪など世界的なパンデミックは幾度となく繰り返されてきましたが、今回の新型コロナウイルス感染症は20世紀以降に経験するSARSやMERSとは違う歴史に残る難敵であるかと思えます。今年3月末から始まった第4波での新規感染者数も緊急事態宣言が発令され、ようやく減少に転じてきておりますが、感染者数の下げ止まりからのリバウンドが懸念されます。今回の波は若年者を含めた重症化例が目立ち、4月末～5月中旬をピークに中等症や重症患者への対応に追われました。当院でも感染者の受け入れが急増するとともに、中等症以上の人工呼吸管理を要する重症患者への対応で緊迫した日々が続きました。感染対策チーム（ICT）をはじめ、コロナに立ち向かって戦ってくれたすべての職員の皆さまに心からの敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は我が国の平時の医療提供体制や病院医療における課題を浮き彫りにするきっかけとなりました。世界一病院数が多い日本において、新興感染症のパンデミックに対応する病床の確保が十分できず、特に夜間の救急受け入れには混乱をきたしました。また、病床設備がエアロゾル感染を生じるような新興感染症に対応していない病院が多く、重症感染症患者への集中治療も想定されていなかったことから、重症用の病床がパンデミックのたびに逼迫し、看護師を含めた人員体制も不足しました。従来5疾病5事業に加え、新興感染症という新たな項目が第8次医療計画、感染症法に追加されようとしております。地域医療構想調整会議がWith/Afterコロナ時代に対応できる中身のあつものになっていくよう願っています。非常時に感染症に対応できる医療体制を今後どうやって構築していくのか、従来の診療とバランスを取りながら、地域事情に応じた医療連携を模索していく必要があると考えます。



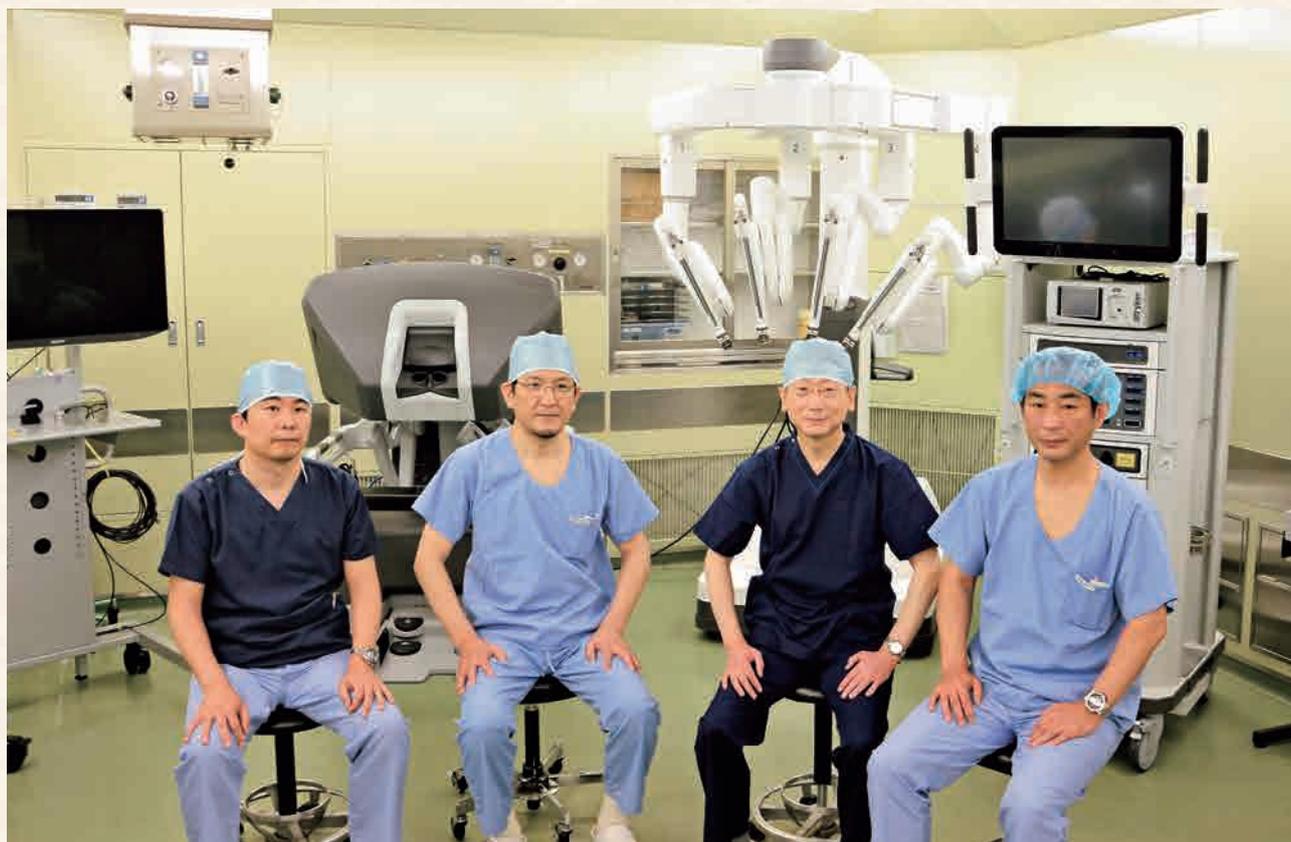
日本でもワクチン接種がようやくスタートし、医療従事者、高齢者への接種が開始されました。今は住民の皆さまへ迅速にワクチン接種を行っていくことが必要で、病院と医師会など関係団体が緊密に連携・協力していくことが求められています。当院は新型コロナウイルス感染症に関する入院診療を行う役割を担うとともに、多数の外来患者さんの診療をしていますので、院内でのワクチン接種は実施しておりません。市町村が実施する集合接種会場でのワクチン接種に職員の応援体制を組んで全力で協力していますのでご理解を賜りますようお願い申し上げます。

京都中部総合医療センターはWithコロナ時代においても最適で安全な医療を住民の皆さまに提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆さまのご協力とご支援を賜りますようどうか宜しくお願い致します。

～コロナ禍にあっても、最新の医療機器で最高の医療提供に向けて～

当院では2021年6月12日にアメリカのインテュイティブサージカル (Intuitive Surgical) 社が開発したダビンチシステムの最上位機種「da Vinci Xi」を導入しました。ダビンチとは、内視鏡手術を支援するためのロボットであり、これまでの腹腔鏡手術よりもさらに鮮明な視野で、繊細な操作を行うことができると言われています。ダビンチは「ロボット」「コンピューター」「光学」の各技術を応用して、外科医が行う低侵襲手術を支援する医療機器です。高倍率3D HD技術、専用インストゥルメント（鉗子）、コンピューターソフトウェアの搭載により、術者は鮮明な視野の下でインストゥルメントを操作することでより精緻な手術を行うことができます。

京都府立医科大学泌尿器科学の浮村理教授、消化器外科学の大辻英吾教授のご指導とご支援を賜りながら、当院では泌尿器科の金沢部長、消化器外科の山岡副院長、飯高部長が先頭に立ち、泌尿器科や消化器外科領域でこのロボット支援手術を行っていきます。7月には既に第1例目の手術が予定されており、今後広く普及していくことを期待しております。京都中部総合医療センターはコロナ禍にあっても、最新の医療機器を用いて、地域住民の皆さまに最高の医療が提供できますよう努力してまいります。今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。



最新のロボット手術でがんに挑む

副院長・外科部長 やまおかのぶき 山岡 延樹



ダビンチ (da Vinci) は、アメリカ (Intuitive社) で開発された内視鏡手術を支援するロボットです。ここで間違っはいけないのは、決してロボットが手術を行うのではなく、ちゃんと血の通った外科医がロボットを操作するということです。患者さんの体に開けた小さな傷から、専用の内視鏡カメラとロボットアーム (手) につないだ手術器具を挿入して手術を行います。術者は、立体視できる3Dモニターを見ながら、自らの手を動かしているような自然な感覚で、ロボットの手を遠隔操作することができます。手ぶれがなく精密な操作が可能で、その動きの自由度は人間の手以上のものがあります。これまでの腹腔鏡手術よりもさらに鮮明な視野で、繊細な操作を行うことができるのです。

今回、当院で導入する「ダビンチXi」は、第4世代と呼ばれている最新機種となります。大変高価な医療機器ですが「最新の医療機器で最高の医療を提供すべき」との、辰巳哲也院長の英断のもと導入が決定いたしました。この最新機は京都市より北の京都府下では初めての設置となります。7月に泌尿器科、つづいて9月には外科でも稼働する予定です。これまでの開腹手術、腹腔鏡手術に加えて、適応のある疾患にダビンチによる手術を積極的に行っていきます。京都中部総合医療センターは、新型コロナウイルス感染症へ第一線で対応する使命を果たしながら、これからも南丹地域におけるがん治療の中核としての実績をさらに確かなものに、さらに世界レベルの医療を皆様の身近にお届けしたいと考えております。



泌尿器科の疾患とロボット支援下手術（ダビンチ手術）

泌尿器科部長 かなざわ もとひろ 金沢 元洪

泌尿器科領域においては、2012年に根治的前立腺摘除術が国内で初めてロボット支援手術の保険適応となって以来、腎癌に対する腎部分切除術（2016年）、膀胱癌に対する膀胱全摘除術（2018年）、腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術および骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術（2020年）と適応疾患が広がってきています。

ダビンチ手術の特徴

●傷口が小さいため術後の疼痛が少なく、回復も早い

内視鏡や鉗子を挿入するための5～12mmの傷で済みます（術式によって異なります）。傷口が小さいため、痛みは少なく、術後の回復が早い傾向にあります。

●術中の出血が少ない

3D視野、拡大視野および精緻な操作により、開腹手術と比べ出血が少なく済みます。前立腺全摘除術は出血の多い手術でしたが、ロボット支援手術の導入により術中に輸血が行われる例はほとんどありません。

●機能の温存が向上

鉗子の緻密な動きによって機能を温存させる手術が期待できます。前立腺全摘除術では、開腹手術に比べて尿失禁の回復が早くなることが報告されています。腎部分切除術では、腫瘍を正確に早く切除できるため、腎機能に対するダメージが少なくなる可能性が報告されています。

併存疾患によっては手術ができないことがあります。前立腺全摘除術では25° 頭を下げた姿勢で手術を行うため、この姿勢が難しい方（脳動脈瘤や緑内障の患者の一部）はロボット支援手術を受けることができません。また、以前に腹部手術を受けたことのある方も、ロボット支援手術を受けることができないことがあります。

これまで南丹医療圏にダビンチを導入している病院はなく、対象症例があっても京都市内などで手術を受けていただかないといけなかった状況でしたが、当院でのダビンチ導入によって、安全で侵襲の少ない手術を地域の皆様に提供できるようになりました。よろしくごお願い申し上げます。

直腸癌に対する大きな武器：ロボット支援下直腸癌手術について

外科部長 いいたか だいすけ 飯高 大介

みなさん、はじめまして。この度ロボット支援下直腸癌手術を担当することになりました外科の飯高です。2018年4月にロボット（ダビンチ）支援下の胃癌、直腸癌手術にも保険適応が拡大されました。それ以降、日本各地でダビンチの導入がすすみ、現在国内で約400台が稼働しているといわれています。外科領域でのロボット支援下手術件数も軒並み増加しています。当院でも、この度最新式のダビンチXiを導入し直腸癌手術を開始することになりました。これは京都府亀岡以北で初のXiとなり、またロボット支援下直腸癌手術を施行できるのは、同地域で当院が初となります。今までダビンチ手術を受けたくて京都市内まで通っていた患者さんも安心して当院にお任せください！

当院外科では開腹手術よりも腹腔鏡手術を積極的に行っております。この3年間の大腸（結腸・直腸）癌手術は90%以上を腹腔鏡手術で施行しております。腹腔鏡手術は開腹手術に比べて手術の傷が小さく、手術後の体の回復が早いのが特徴の一つです。それに加え、アームの先が人間の手以上に自由な動きが可能であり、アームの手振れ防止機能、立体的に視える3Dカメラなどのダビンチならではの機能を最大限に生かすことで、狭く奥深い骨盤内での操作が必要な直腸がんの手術で、腹腔鏡手術よりもより正確で繊細な手術操作が可能となります。これがダビンチで直腸癌を手術する最大のメリットだと思います。費用面も腹腔鏡手術と同額です。

また当院では大腸癌の抗がん剤治療も積極的に行っており、2018年45人、2019年44人、2020年52人の患者さんに行いました。2021年は去年より多くの患者さんが抗がん剤治療を受けておられます。

このように当院では今まで以上に最新の大腸癌治療が可能になっています。患者さんからのご質問があればいつでもお答えします。また近隣医療機関の先生方からの患者さんのご紹介もお待ちしております。ダビンチ手術・抗がん剤治療で大腸癌という大きな敵に、打ち勝てるように一緒に戦っていきましょう。

看護師による特定行為について

当院では令和3年6月より専門的な知識と技術が必要とされる特定行為（診療の補助）を、研修を受けた看護師（特定看護師）が医師の指示を受け、あらかじめ定められた手順書に従って行っております。

特定行為とは

特定行為は、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる38の行為です。当院では令和3年6月現在、特定行為の一部を手順書に従って行っております。

手順書とは

医師が看護師に診療の補助を行わせるためにその指示として作成する文書又は電磁的記録であって、次に掲げる事項が定められているものであること。

- (1) 看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲
- (2) 診療の補助の内容
- (3) 当該手順書に係る特定行為の対象となる患者
- (4) 特定行為を行うときに確認すべき事項
- (5) 医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制
- (6) 特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法



看護師長
まつく みき
眞継 美貴

令和3年3月に特定行為研修を修了し特定看護師となりました。研修を通して、患者さんの状態変化をどのように根拠をもって捉えるか、どのように的確に医師に報告、相談するかを改めて考え直す機会になりました。私は精神領域の2区分5行為を研修終了し、脱水や高カロリー輸液等における投与量の調整、抗精神病薬や抗不安薬、抗けいれん薬の臨時投与の対応を実践していきます。

また、ご高齢の患者さんでは、せん妄と言ひ、体の不調のため一時的に意識がぼんやりして身の周りのことが分からなくなってしまうことがよくあります。せん妄は患者さんにとって負担が大きく発症を予防することが大切です。今後、せん妄予防のために入院環境を整えたり、主治医と共同で内服薬を見直すといった取り組みも行っています。患者さんやご家族が安心して治療に専念できるよう、医師、看護師、他職種と一緒にチーム一丸で頑張っていきたいと思ひます。



副看護師長
しおがい まき
塩貝 麻紀

特定行為とは、これまで医師の指示がなければ行うことができなかった行為であっても研修を修了した看護師は、医師の判断を待たずに事前に医師と看護師の間で取り決められた手順書に従って、診療の補助行為を実施することができます。厚生労働省では21区分38行為を定めていますが、私はそのうち外科術後病棟管理領域という13区分19行為を取得しました。

具体的には腹腔ドレーンや胸腔ドレーンの抜去、気管カニューレの交換、動脈血採血、人工呼吸器設定の変更、中心静脈カテーテルの抜去、末梢留置型中心静脈カテーテル（PICC）の挿入や脱水症状に対する輸液による補正などを実施します。特定行為制度が創設されてからは日は浅く認知度もまだまだ低いですが、多種多様な医療スタッフと協力し、連携を取りながら患者さんに関わることで、適切な処置や治療をタイムリーに実施し患者さんの早期回復に貢献できればと考えています。

地域医療連携室の役割

地域医療連携室長・副院長 けいら なつや 計良 夏哉



このたび地域医療連携室長を拝命しました。よろしくお願いたします。

地域医療連携室が開設されたところから内科医として関わりを持ってきました。あらかじめ病気が診断されていて、この病院のこの診療科のこの先生に診てもらいたい、紹介したいということが決まっている場合もあると思いますが、とにかく近くの総合病院で診てもらおうことが期待されている場合も多くあります。患者さんに平日に来ていただけさえすれば、その日のうちに病院

で最も適切な診療科の医師が診察できるような体制づくりを目指してきました。

入院して急性期の診療が進み、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟なども上手く活用しながら、患者さんにいかにストレスなく退院後の日常生活に戻っていただくようにご家族や地域の医療従事者のみなさんに引き継ぐのが後方支援ですが、これも地域医療支援病院の重要な役割です。コロナ禍で人の動きが制限されるなか、地域の基幹医療機関の役割はさらに重要さを増しています。高い診療・看護の技術の維持はもちろんですが、このような医療のマネジメントの技術も重要です。「中部総合医療センター？あそこに任しておいたら（何とか）あんじょうしてくれるわ！」そのような評価を患者さんや地域の先生やスタッフの皆さんから受けられるように、病院職員一丸となって頑張っていきたいと思っております。

地域医療連携室では、地域の医療機関や福祉施設、在宅介護支援機関等と連携を図り、患者さんに適切な医療を提供できるよう病院の窓口として業務を行っています。当院と患者さん、地域の各関係機関の皆さんをつなぐ役割を果たし、安心して地域で切れ目のない医療を受けていただけるよう今後も努めてまいります。

地域医療連携係

地域医療連携係は、患者さんが安心してスムーズに受診していただけるよう、紹介元の医療機関等との連携を図り、主に診察・検査の予約や転院の受入れ調整などを行っています。その他には、紹介患者さんの各外来へのご案内や、受診報告・診療情報提供書等の管理、他院への受診調整、広報業務などを担当しています。スムーズな連携ができるよう心がけて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携係

TEL.0771-42-5061 (直通)

FAX.0771-42-5071

退院調整係

TEL.0771-42-3130 (直通)

FAX.0771-42-5071

退院調整係

退院調整係は、入院患者さんやご家族の退院後の生活に向けた相談窓口として、介護サービスの利用や福祉施設への入所の案内、他医療機関への転院調整などを行っています。各病棟担当の医療ソーシャルワーカーや退院調整看護師が、医師や病棟看護師、リハビリ担当者、薬剤師、管理栄養士など他職種と連携しながら、地域包括支援センターや居宅看護支援事業所・介護施設などの関係機関と連絡を取り合い、必要とされる支援をスムーズに受けていただけるよう調整を行っています。退院後の生活への不安や療養先などのご相談がございましたらお気軽にお声かけ下さい。

京都中部総合医療センター 新人職員のメッセージ

研修医

ますこ けいたろう
増子 恵太郎

当院の実習で勉強した際に、病院の雰囲気が好きでここで働きたいと思いました。まだまだ慣れないことが多く、周囲に迷惑をかけてばかりですが、この地域の医療に貢献できるよう頑張っています。コメディカルの方々も親切で、働きやすい環境を作っているのだから早く仕事に慣れていきたいです。

たなか りほ
田中 理穂

最初の頃は、分からないことばかりで不安が大きかったですが、指導医の先生方やコメディカルの方々に支えられ、最近は少しずつ慣れてきたような気がしております。しかし、まだまだ未熟でご迷惑をかけることがあり、反省の日々を送っています。少しでも早く一人前になり、この地域の医療に貢献できるよう努力していきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。

うえはら ともゆき
上原 智之

4月の研修前は不安や緊張もありましたが、優しい先生方に指導していただき、忙しくも充実した研修生活を送っています。最初に駅から出たときにはのどかなあと思った景色も住めば都で、今は家の近くの川辺がとても気に入っています。当院での研修期間は一年間だけで2年目は京都府立医科大学附属病院へ戻りますが、どうぞよろしくお願い致します。

さい やすゆき
佐井 泰幸

医師としても社会人としても1年目で、まだまだ分からないこと、できないことが多く、自分の力不足を実感する日々です。先輩や上級医の先生方、スタッフの方々や同期の研修医たちに助けてもらい、医師として働く中で非常に多くのことを教えていただいております。この恵まれた環境で研修できることに感謝し、少しでもこの地域の医療に貢献できるよう、精進していきたいと考えております。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後もよろしくお願い申し上げます。



きたむら みちたか
北村 道敬

社会人を経験したのち、一念発起して医学の道を志しました。元々京都の歴史、文化、食、農業に興味があり、将来的に京都市外の地域医療に貢献したいと思い、縁もあってか京都府立医科大学に入学・卒業することができました。

京都中部総合医療センターは大学の地域医療実習の一環で合計1カ月ほどお世話になり、その時に感じたスタッフ一丸となったチーム医療に魅せられ、是非とも微力ながらチームの一人として日々研鑽して参りたいと思いました。まだまだ未熟ですが、日々成長していけるように精進して参ります。よろしくお願い致します。

やまがた まさと
山縣 雅仁

縁あって和歌山から来ました。まだ右も左もわからない状態が続いていますが、私が目にしたのは向き合ってください本気で教えてくださる先生方でした。「人の世は縁の糸の手繰り合い」が私のモットーですがこの病院を選んで本当に良かったなと思いました。数ヶ月後に全然成長していないということにならないよう、少しずつでも成長していけるようまだ地に足がついていない状態が続いておりますが地に足つけて精進して参りたいと思っています。

医師としてはまだどの科になるかということとは決まっておりませんが病気を通して人を診ることのできる医師になりたいと思います。まだ至らない点も多くご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが今後ともよろしくお願い致します。

看護師

第二病棟2階西 もりさき かいと
森崎 海斗

不安と期待が入りまじるなか入職し、初めてのことばかりで戸惑うことも多く、自分には患者さんに対して何が出来るのだろうかと考えることもありました。しかし、先輩方から丁寧にご指導いただき緊張ばかりではなく楽しさややりがいを感じることも増えてきました。今はまだ未熟ではありますが、日々の業務を通して学びを深めていきたいです。また、患者さんが無事退院していくために先輩方のように一人ひとりにあった看護を提供できるよう努力していきたいと思います。



第二病棟2階東 よしだ ゆい
吉田 結

京都中部総合医療センターには看護学校の実習で何度もお世話になりました。その際に働かされていた看護師の方々に憧れを抱き、就職を希望するようになりました。実際に働き始めてからは、分からないことばかりで自分の未熟さを実感する毎日です。忙しい業務の中でも親身になって指導して下さる先輩方に助けていただき、少しずつですができることも増えてきたように感じます。



私は確かな技術と知識、多くの経験を持った、患者さんに信頼されるような看護師になりたいと考えています。実際に現場に出てからはそれを実現することの難しさを感じています。まだまだ道のりは長いですが、今は目の前の1日を大切に、日々成長していけるよう精一杯努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

今後ともどうぞよろしくお願ひします。

薬剤師

おおつき あい
大槻 愛

中学生からの夢であった薬剤師となり、働き始めて喜びを感じています。一方で、不安や緊張、医療に携わることへの責任の重さを日々実感しています。先輩方に丁寧に指導していただきながら医薬品の知識や技術の習得に努めています。



私は一人ひとりの患者さんに親身になって向き合える薬剤師になりたいと考えています。入院患者さんとの会話を大切にし、病態や検査値の経過をみて、医師・看護師・他職種と協力しながら安全で適切な薬物治療がなされるよう働きかけたいです。薬剤師として成長し続け、患者さんが気軽に声をかけていただけるような身近な存在になれるよう精一杯頑張っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

どうぞよろしくお願ひいたします。

臨床工学技士

おくむら ごうし みずいけ ともや
奥村 豪士 ・ 水池 巴哉

僕たち二人にとって初めての社会人生活で毎日が緊張と不安の連続です。実際に働いてみて自分たちの実力・知識ともに足りないことを改めて痛感しています。今は、まだ先輩方にご迷惑をおかけしてばかりですが、少しずつ業務をこなすことができるように頑張っています。

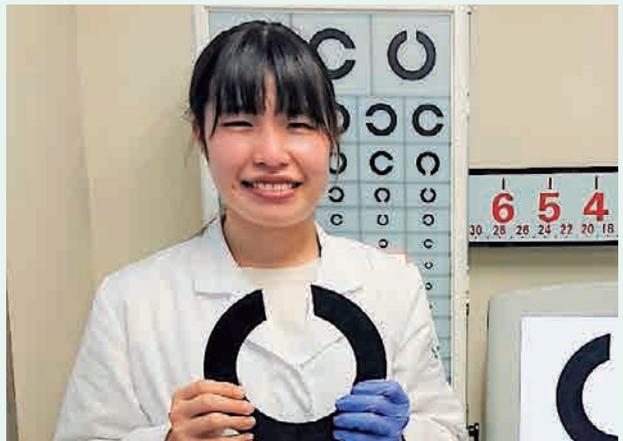
将来の目標は患者さんの気持ちに寄り添い、さまざまな業務を効率よく行えるジェネラリストになることです。そして、他職種の方々ともコミュニケーションをとり、人と機械のかけ橋となれるような臨床工学技士になっていきたいです。まだまだ未熟な私たちですが、皆さんと連携をうまくとり、地域の医療を支える医療従事者として一翼を担える人材になれるよう努力しますのでよろしくお願いします。



視能訓練士

おおもり はるか
大森 悠

4月より、視能訓練士として、皆様の視力検査をはじめとする眼科検査を担当しています。私は、祖母の白内障手術がきっかけで視能訓練士という職業を志しました。社会人としても、視能訓練士としてもまだまだ未熟ですが、南丹地域の医療に少しでも貢献できるよう、日々勉強と経験を重ね精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



地域医療連携室

なかまた ゆうき
中俣 勇樹

元々南丹医療圏の出身であり、昨年地元に戻ってきたことを機に、在住地域の医療に貢献したいと考え転職して参りました。これまで国立病院機構と社会医療法人にて計10年、事務総合職として法人本部や経理、統計といった部署で勤務してきましたが、この度配属となった地域医療連携室は患者さんや診療現場との距離が近く、これまでの経験とは求められる物も違い、まだ院内外の事情にも疎い私は、殆ど新人に戻った気持ちで日々四苦八苦しております。逆に言えば院内や地域の医療機関のことを良く知る絶好の機会でもあるので、前向きに頑張っていこうと思います。

まだまだ未熟者でご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが「頼られる事務職員」が私のモットーであり、そうなれるよう精進して参りますので、長い目で見ていただけますと幸いです。



産婦人科

産婦人科部長 つちや ひろし 土屋 宏

当院の産婦人科の診療は、山本拓郎先生、太田早希先生と私の常勤医3人と京都府立医科大学から週1日木曜日の外来をお願いしている以前当院で勤務していた高岡 幸先生で行っています。

婦人科では、近年、子宮筋腫や子宮内膜症、それらによる月経困難症や卵巣嚢腫に対する様々な薬剤療法が行われるようになっており、外来にて相談いただけたらと考えます。また、薬物療法では対応できず手術が必要となった場合には、良性疾患の大多数は腹腔鏡下手術にて治療可能となっています。

子宮癌や卵巣癌についても当院にて手術、抗がん剤治療及び治療後の経過観察を施行しております。当院での説明の上でさらに他院での説明を希望された患者さんには、セカンドオピニオンとして紹介もしておりますのでお申し出ください。

産科に関しては、地域周産期母子医療センターとなっており、当直医が24時間待機しており、当院の患者さんの分娩はもちろん他院からの妊娠30週以降の救急母体搬送に対応しています。さらに当直医以外にも緊急帝王切開に対応できるようにもう一人の医師が呼び出しに対応できるようにもしています。また小児科とも毎週カンファレンスを開き、対応が必要な妊婦さんについて協議を行って、分娩時には小児科医師の立ち合いを要請しております。

当院では、通常のお産はできるだけ自然な分娩を心掛けています。しかし予定日超過や破水、微弱陣痛などでは、赤ちゃんのために、患者さんに説明し同意していただいてから、十分な管理の下、陣痛促進剤も使用しております。また、分娩時には、赤ちゃんの状態が予想外に悪いこともあり、これに対応するために医師や看護スタッフは日本周産期・新生児学会の新生児蘇生法講習会を受講しています。



腹腔鏡下手術を積極的に行っています



外来診察室にて

臨床検査科

臨床検査技師長 もりした そうた 森下 惣太

医師が病気を診断・治療するには、患者さんの身体の状態を知らなければなりません。身体の状態を知るために診察を行い、それにまつわる様々なサインを確認するために臨床検査がおこなわれます。臨床検査を行う最大の目的は病気を見つけ診断することですが、検査データを経時的に比較することで治療経過を評価し、病気の重症度判定や根本的な原因を探索することで治療の方針を決める場合にも必要とされます。

臨床検査科で行っている検査は「検体検査部門」と「生理検査部門」の2種類に大別されます。

検体検査部門

患者さんから採取した血液、尿、便、痰、組織などの様々な検体に、科学的な分析を行うことによる数値化や、標本を作製し顕微鏡を用いて形態学的な評価を行います。

検体検査部門は病理学検査を除き、病院内での検体検査および病院内で検査できない項目を含めすべて、臨床検査会社の協力のもと検査を行っています。病院内で実施可能な検査項目は、医師および診療現場のニーズに可能な限り応えるべく、適宜新規・追加検査項目の導入を行っています。病院内で実施できない検査項目は、臨床検査会社の検査センターへ外注となりますが、病院内検体検査室とのオンラインでの連携により、検査結果が電子カルテへスムーズに反映されます。また、検体検査室では当直体制を整えており、夜間休日でも必要時に検体検査が行えます。

病理学検査は、伏木総長を中心に京都府立医科大学の病理専門医の協力のもと、診断や治療に必要な病理診断を行っています。病理学検査の臨床検査技師は、病理専門医が病理診断を行う際に顕微鏡を用いて観察する組織標本の作製を行います。病理学部門には専属の臨床検査技師2名を配属し、診察や内視鏡検査、手術などで採取された組織や生検検体から組織標本作製しています。また、液状の検体（尿、喀痰、体腔液）や子宮頸部・体部の擦過などの検体を用いて染色しスクリーニングを行う細胞診では、細胞検査士の資格を有した臨床検査技師が標本を観察し良性と悪性疑いの分別を行い、病理専門医により診断が確定されます。



検体検査室



病理検査室

生理検査部門

患者さんの心臓や脳などの働きにより生じる微小な電気活動をとらえて波形として記録する検査や、体腔内の臓器や血管の状態を超音波を利用して映像化しリアルタイムに観察する検査などを行います。

生理検査部門は3人の臨床検査技師を配属し、心電図検査・肺機能検査・足関節上腕血圧比（ABI）・皮膚灌流圧検査（SPP）・24時間ホルター心電図・神経伝達速度検査・誘発電位検査（ABR）・平衡機能検査・脳波・腹部超音波・甲状腺超音波・リハビリセンターでの心肺運動負荷試験（CPX）と、多種多様な生理検査に対応しています。



生理検査室

新任のご挨拶

のむらみどり
専任教員 野村 翠里



公立南丹看護専門学校を卒業して、はや十数年。京都中部総合医療センターにて病棟勤務に勤しんできましたが、このたび素敵なお縁により、恩ある母校に戻って参りました。

驚かされたのは、学習環境が飛躍的に充実している点です。学生達も教員も各個人がタブレットを使いこなし、電子教科書にオンライン授業、配布資料もすべてタブレットの中。4月に入学した新入生ですら、一か月もしない間にタブレットでプレゼンテーションができるレベルにまで成長する姿は、紙媒体での学習が主であった私からすると隔世の感があります。コロナ禍という逆境下でも貪欲に学び、そして生きることを楽しもうとする学生達の笑顔は、私達の世代と何も変わらず医療の明るい未来を感じさせてくれます。彼らの頑張りを支援できることを嬉しく、誇りに思っています。

京都中部総合医療センター看護専門学校と名を変え新たな一步を踏み出した母校と共に、私も初心に戻り、教員という今までとはまた違った視点から看護と医療を学び直していきたいと思えます。至らない点も多々ありますが、どうぞよろしくお願い致します。

設備見学について… 災害拠点病院のバックヤードを体験しました

こまつ りんと
1年生 小松 凜翔

設備見学ではヘリポートや機械室など普段見ることのできない場所に入れていただき、ここでしか聞けない貴重なお話を伺いました。将来自分が働きたいと思う職場を知ることができ、より一層看護に対する意識が深まりました。看護への道はまだ始まったばかりですが、自分がどのような看護をしていきたいのかを追い求めて日々精進していこうという決意ができました。



お湯だけで作れる非常食を実際に作って試食

むらかみ ふうか
1年生 村上 風花

私は看護師になるという目標とともにフライトナースになりたいという夢があります。なので、設備見学を通して、3年後自分が立つステージや憧れであったヘリポートを目の前にしたときに感動を覚え、目標や夢に対する思いがより一層強くなりました。また、一步を踏み出した今、どんな試練も乗り越え、様々な経験を積みながら日々努力を重ねていくと決心することができました。



初めて上ったヘリポート、少し身の引き締まる思い

日常生活で放射線に被ばくするって どういうこと!?

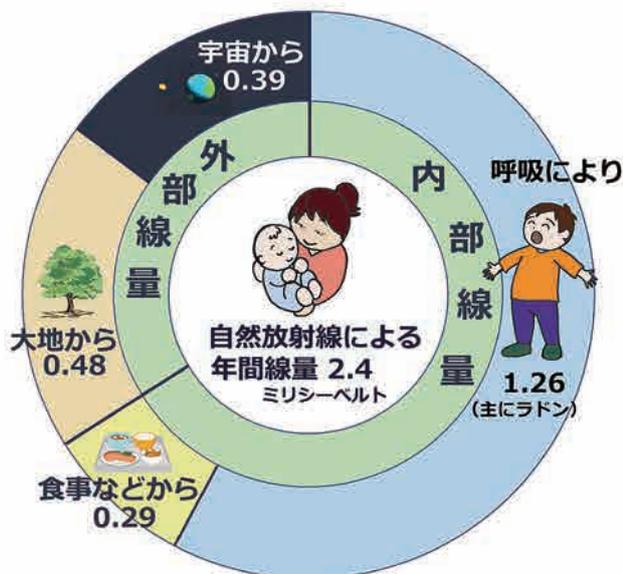
放射線科・診療放射線技師主任 愛甲 太洋 あいこう たいよう

私たちは、普段の生活の中で知らず知らずのうちに放射線による被ばくを受けていることをご存じでしょうか。放射線はもともと自然界に存在するもので「自然放射線」と呼ばれます。自然放射線の被ばくには、体の外から受ける「外部被ばく」と体の中から受ける「内部被ばく」に分かれます。

外部被ばくにより、私たちは絶えず被ばくをしています。それは宇宙や大地から発せられる放射線によるものです。宇宙や大地から発せられる放射線によって宇宙からの放射線は高度が高いほど影響を受けるため、飛行機に乗ったり、高い山に登山したりすると、地上よりも多く被ばくします。例えば東京からニューヨークを飛行機で往復した場合、約0.19ミリシーベルト被ばくするといわれ、これは病院で胸部のレントゲン検査（約0.05ミリシーベルト）を受けるよりも多い被ばく線量になります。大地からの放射線は、岩石や土の中に含まれているカリウムやウランなどの放射性物質から絶えず放射線が出ていることで被ばくします。

次に内部被ばくですが、空気中にはラドンなどの気体状の放射性物質が含まれ、呼吸をすることで人体に取り込まれます。また、放射性物質が含まれた大地から採れた作物や、草を食べた牛や豚の肉を食べることで、私たちは知らないうちに放射性物質を取り入れています。

私たちが1年間に受ける自然放射線は、世界平均で約2.4ミリシーベルトです。ちなみに一度に100ミリシーベルト以上被ばくした場合に人体への影響を生じるといわれています。また病院での放射線検査による被ばくは、ほとんどの検査や放射線治療以外でこの線量を超えることはありません。また放射線検査を受けたことによってガンになる確率も限りなく低いので、安心して検査を受けていただければと思います。



放射線検査機器を更新しました

レントゲン検査室にフラットパネルディテクタが導入され、令和3年3月から稼働しています。この装置は撮影した画像の表示が数秒で完了でき、複数枚撮影の際、写真を撮るための板（カセット）の入れ替えの必要がないため、検査時間の短縮が可能となりました。さらに従来の装置より、放射線を吸収する効率がアップしたことによって、少ない放射線量でかつ高画質画像の撮影が可能になりました。



令和2年度 患者満足度調査

副看護部長・業務改善委員会 藤阪 みさ代

	配布枚数	有効回答数
外 来	1,000枚	773名
入 院	200枚	159名

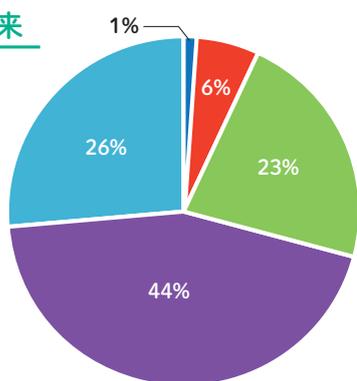
【調査期間】

外来：令和3年3月1日～令和3年3月12日

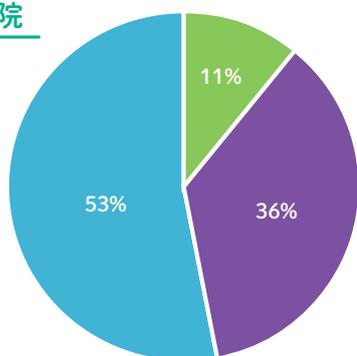
入院：令和3年3月1日～令和3年3月5日

総合満足度評価

外 来



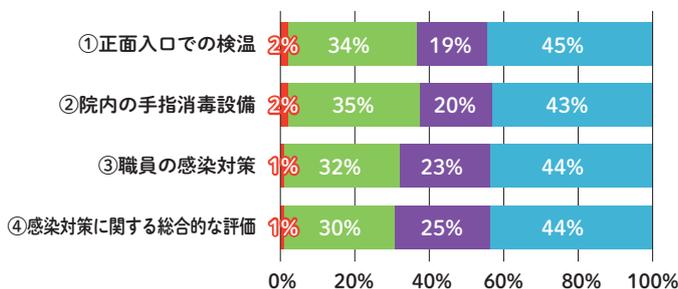
入 院



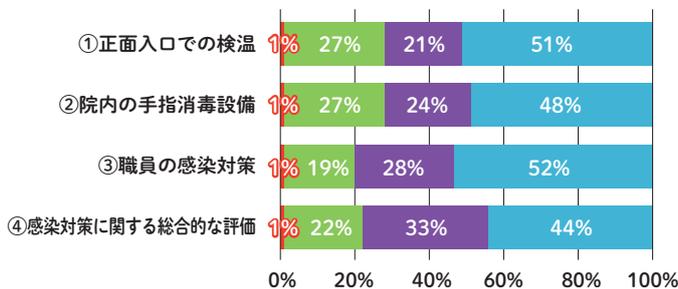
■ 不満 ■ やや不満 ■ どちらともいえない ■ やや満足 ■ 満足

感染対策評価

外 来



入 院



■ 悪い ■ やや悪い ■ ふつう ■ まあ良い ■ 良い

昨年度からの新型コロナウイルス感染症発生に伴い、地域の皆さまには大変ご迷惑をおかけしています。そのような中にもかかわらずアンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。本来なら年2回実施しているところ、新型コロナウイルス感染症対策により令和2年度は1回の実施となりました。その集計の結果を報告させていただきます。

総合満足度評価は、外来については「満足・やや満足」が70%、入院については「満足・やや満足」が89%の評価でした。総合満足度はここ数年同程度の数値の推移となっております。また、今回新型コロナウイルス感染症関連で当院の感染対策について、①正面入口での検温、②院内の手指消毒設備、③職員の感染対策、④感染対策に関する総合的な評価の4項目についてお聞きしました。外来は「良い・まあ良い」が60%以上の評価でした。入院では、75%以上の評価をいただきました。

今回のアンケートでは貴重なご意見を多く頂きました。その中には私たち医療従事者への感謝や励ましのお言葉も多くあり、ありがとうございました。頂戴いたしましたご意見を少しでも改善につなげられるように今後検討していきたいと思っております。これからも感染対策を徹底させながら安全な医療を皆さまに提供できるよう努めてまいります。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは…

普段の健康状態を把握してくれる
もっとも身近な「主治医」のことです。
具合が悪くなったり、困ったときにはいっしょ
に受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



かかりつけ医についてのご相談は

総合受付①窓口

- 地域医療連携室 / 電話0771-42-5061(直通)
- 受付時間 / 平日8:30~17:15

看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

- ◆ 看護師寮利用できます。(正職員)
 - 月額4,000円(税込)
 - * 水道費込み
 - * 冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197
京都府南丹市八木町八木上野25番地
京都中部総合医療センター
総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。



<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



編集後記

新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しません。窮屈な生活が1年以上強いられています。一刻も早いワクチンの普及を祈るばかりです。一方で、今年はインフルエンザ感染が激減したそうです。嚴重な感染対策の「副産物」ですが、それで失われずに済んだ命もあるはず。感染症の脅威は新型コロナウイルスだけとは限りません。テレビや新聞の報道を見るたびに、感染症に対する甘い認識が警告されている気がします。

広報委員会 H.M.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

